

上部消化管内視鏡検査について

1. 目的

上部消化管とは食道・胃・十二指腸を指します。これらの場所にできる病気（炎症・潰瘍・ポリープ・静脈瘤など）を見つけ、適切な治療方法を考えるために行います。

2. 方法

内視鏡を口または鼻から挿入し、上部消化管の観察をします。病変が見つかった場合、小さな組織を採取して顕微鏡検査（病理学的診断）を行うことがあります。

3. 偶発症について

内視鏡検査の際に使用する薬剤などに対するアレルギー反応や、薬剤の副作用としてのショック症状、呼吸困難、不整脈、尿閉、緑内障発作、嘔気、嘔吐、低血糖症状などが起こり得ます。また、出血、穿孔（せんこう）などにより緊急内視鏡、輸血、外科的治療が必要になることもあります。日本消化器内視鏡学会の全国集計（2002年）によると、偶発症の頻度は1万人に対し1人（0.012%）、死亡に関しては14万人に対し1人（0.00076%）との報告がありました。このほかにも不測の事態が起こる可能性があります。万一偶発症が発生した際には迅速に最善の処置を行い、大事に至らぬよう対応させていただきます。

4. 鎮痛剤・鎮静剤について

喉、または鼻の麻酔を行います。当院ではより楽に検査が受けられるように鎮痛・鎮静剤を使用することがあります。鎮痛・鎮静剤投与による検査後は眠気が残ったり、足もとがふらつくことがあります。

当院では鎮痛剤・鎮静剤使用時は検査開始時から帰宅までの付き添いの方が必要になります。また当日は自動車やバイク、自転車などの運転はしないでください。また危険を伴う仕事もおやめください。

5. 抗血栓剤（血液が固まりにくくなる薬）について

抗血栓剤を内服している場合は必ず前もってお知らせください。抗血栓剤を内服されている場合、組織を採取する検査ができない場合があります。その場合には後日改めて抗血栓薬を調整させていただきますので担当医、処方医と内服薬の中止・継続・変更につき、よくご相談ください。

上部消化管内視鏡（胃カメラ）検査を受けられる方へ

岡山ろうさい病院で上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）を受けるにあたっての注意事項についてご案内させていただきます。

1. 抗血栓薬（血液が固まりにくくする薬）について

上記を内服されている方はかかりつけの医師の指示に従ってください

2. 検査当日の食事・内服について

食事は前日の夜9時以降絶食でご来院ください（飲水は可能です）

抗血栓薬はかかりつけの医師の指示に従ってください

糖尿病の薬は中止してください。

その他の薬は朝早め（6時頃）に内服してください

3. 検査当日の来院時間について

検査当日は検査予約時間の30分前頃に当院1階の1番窓口で受付後、内視鏡室にお越しください。

4. 検査当日に持ってきていただくもの

- ・診察券（初診の方は当日総合受付でお渡しします）
- ・診療情報提供書原本
- ・検査予約票

5. 麻酔（鎮静薬）を使用される予定の方へ

麻酔を使用される方は、必ず成人以上の付添の方が検査開始時から帰宅まで必要になります。

なお、未成年の方、杖・押し車・車椅子を使用されている方は付添にはなることが出来ませんので予めご了承ください。